

# 明治初期多門院村の家族と縁組

京都府立大学文学部歴史学科 3 回生 廣瀬友佳

## 1 多門院村の戸籍に関する史料について

今回調査した史料は、初行に「丹後国加佐郡多門院村」と記してあり、その内容から明治 5 年（1872）の多門院村の戸籍に関するものであることが分かる。明治 4 年太政官布告第 170 号により明治 5 年に最初の全国的な戸籍である壬申戸籍が編成された。したがって、この史料は壬申戸籍を作成する際の下書きとして作成されたものと考えられる。

主な記載内容は、番地・身分・年齢や生年月日を含めた家族構成員・氏神と寺院であり、江戸時代に毎年作成されていた宗門帳に近いものであったと考えられる。また、戸主の父親や縁組等で多門院村に加籍した人物の出身地なども記載されている。

### 1-1 史料の特徴—明治 8・9 年の追記—

この史料には、明治 8 年と 9 年の追記がある。明治 8 年の追記では、村民全員の年齢が明治 5 年の年齢記載の横に朱書きで「八年一月五十三歳」といったように付け加えられている。また、史料の末尾にまとめられた年齢ごとの人数の部分にも修正がみられるため、県などに報告する際に、人数を確認するために使われていたと考えられる。明治 9 年の追記では、死亡・隠居などによって、戸主が変わった家族計 12 軒の頁に貼り紙がされ、修正しているのがみられる。さらに、明治 9 年生まれの子供 6 人の名前も追記されている。

以上より、この史料は少なくとも明治 5 年以降約 4 年間は使用され続けていたことが分かる。また、上記のように、宗門帳に近い内容であったと考えられるが、明治 9 年の貼り紙には、それまで記載されていた宗教の記載がなく、戸籍から宗門改の機能が失われていったと考えられる。

次に、番地も朱書きで書き換えが行われている。明治 5 年当時に 727 番地であった住所が 1 番地に変更され、これ以降順番に 76 番地まで変更が続いている。これに関して、その他の部分において追記がみられるのは明治 8 年か 9 年のみであるため、この 2 年間のどちらかで書き換えが行われたと考えられる。ここから、明治 5 年から明治 9 年の間に多門院地区の地番が変更されたことが分かる。

さらに、明治 5 年に作成された際には「加佐郡」と記載されていた部分が、明治 9 年の貼り紙では「小区」と記載されており、明治 5～11 年に実施された大区小区制度による変化もみられる。

## 1-2 史料の特徴—生年月日の記録—

生年月日に関しては、家族全員の誕生日が細かく記載されている。記載された誕生日には、特に目立った偏りなどはみられないため、藩や村などの統制などによって生年月日が正確に記録されていたのではないかと考えられる。しかし、全体で2、3軒のみ、一家に同一の誕生日が数人みられる戸があり、そのあたりの記録は曖昧であったのではないかと考えられる。

## 2 戸数・宗教・家族構成

### 2-1 戸数

明治5年の多門院村の戸数は80軒で、内1軒が興禅寺、残り79軒が家持である。戸籍に記載された人数は男性189人、女性162人で合計351人となっており、その男女比率は、男性の方が若干多い。しかし、実際の戸籍には、他地域への嫁入・養子等によって除籍した村民も記載されているため、400人を越える村民が記載されている。

### 2-2 身分・宗教

村民の身分は興禅寺の僧一人以外全て農民であり、純農村であったことが分かる。宗教に関して、史料には各戸における氏神と寺院がそれぞれ記載されているが、氏神は興禅寺以外の全戸が山口社である。一方、寺院は、興禅寺と樹徳院に35軒ずつ属しており、残り9軒は不明である。不明な9軒に関しては全て明治9年の貼り紙部分であり、先述のように宗教確認の機能が失われたため、宗教に関する記載がない。この、興禅寺と樹徳院は双方とも臨済宗天龍寺派の寺であり、興禅寺は多門院村、樹徳院は隣村堂奥村の寺である。番地順に戸主や寺院などを比較してみると、全体的に前半の番地の戸には樹徳院が多く、後半の番地の戸には興禅寺が多くみられる。多門院村と堂奥村は隣村であるため、地理的な理由から前半の戸の多くが樹徳院に所属しているとも考えられる。

### 2-3 家族構成

家族構成は、1戸につき4～7人構成が多く見られ、平均は5.1人である。4～5人の場合は、戸主・妻・娘・息子といった1世帯家族・単婚小家族の形態が多く、6～7人の場合は1世帯家族に祖父母もしくは、そのどちらかが加わる2世帯家族の形態がよくみられる。1戸につき2人という戸も8軒ほどみられ、その場合は、夫と妻2人の場合か、もしくは、夫が亡くなり、母と娘か息子という形態が多く見られる。

### 3 年齢

年齢に関して、戸籍の最後の頁に年齢ごとの人数がまとめて記載されている。そこには、男性が14歳以下、15歳以上、21歳以上、40歳以上、60歳以上、80歳以上で区分され、女性は14歳以下、15歳以上、40歳以上、80歳以上で区分されている（表1）。このように、年齢の分け方は男女で異なっており、ここには、成人や生産年齢人口、また、租税などが関係していると考えられる。全体をまとめると、最少年齢が1歳、最高年齢が92歳で、明治5年の多門院村の平均年齢は31歳である。厚生労働省の統計による明治24～31年の0歳児の平均余命は男性が42.8歳、女性が44.3歳であったため、当時の水準からみると、長寿者の多い村であったと考えられる。戸籍の年齢分けによる男女別の人数を図1に表したところ、男女の年齢による人数差は少ないことが分かる。また、図1と各年齢の人数を表した図2を参考にすると、嘉永6年～安政5年（1853～1858）に出生した15～20歳の人数が極端に少なく、嘉永元年（1848）に出生した25歳の人数が極端に多いことが分かる。

### 4 誕生と移動

#### 4-1 誕生月

誕生月ごとの人数の図3をみると、6・7月と冬季に出生数が少ないことが分かる。昭和11年（1936）の日誌「梅原伊平治・久田美」によると、稲麦作の場合、6月25日が田植え初め、7月4日に全田植え終了となっており、稲刈りが、10月1日に稲刈り初め、10月4～9、15日と11月1、4、5日、11月6日に全稲刈り終了とされている。したがって、出生数が少ない月は農事の繁忙期であり、田植えと稲刈りの時期を避けて出産を行っていた可能性がある。

#### 4-2 嫁入・養子などによる送籍

戸籍記載の嫁入・養子等の縁組で、多門院村への加籍・移籍人数は101人、その内多門院内での縁組41%、村外での縁組59%となる（表2）。一方、嫁入・養子等の送籍人数は16人、その内多門院内での送籍69%、村外での送籍39%であり（表3）、村外からの加籍が多い。また、加籍してきた地域をみていくと、縁組は多門院に近い鹿原村、木之下村、堂奥村などで多く、その他の地域にも広がっている。特に、現在の福井県高浜町にあたる、大飯郡上瀬村・山中村・六路村からの加籍が5件みられ、多門院の交流地域が隣国まで広がっていた。多門院の縁組の地域別人数を表した図4を参考にすると、多門院から一番遠い布敷村との間で約10km、現福井県高浜町域との間で約8kmの距離があり、縁組はおおよそ約10km圏内で実施されていることが分かる。これは、当時において1日で往復できる距離であったと考えられる。一方で、養子などの送籍では、西京今出川の地名がみられ、かなり広範囲であった。

#### 参考文献・引用

厚生労働省 参考資料1 平均余命の年次推移

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/19th/gaiyo.html>

舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』各説編、舞鶴市、1975年、577頁

表1 男女別の年齢人数

年齢	男	年齢	女
～14	45	～14	31
15～20	18	15～39	65
21～39	58	40～79	61
40～59	43	80～	2
60～79	22		
80～	3		

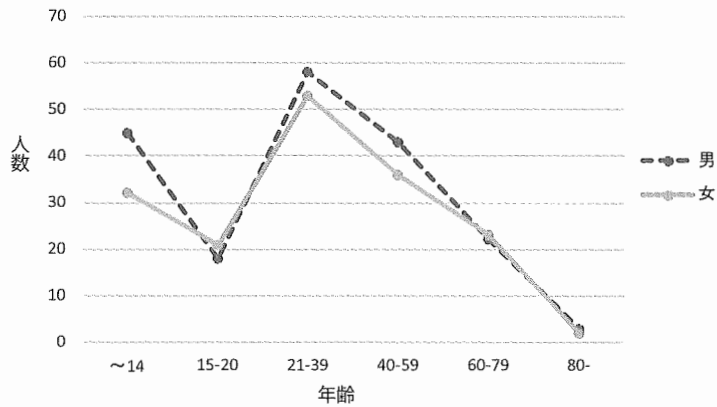


図1 戸籍の年齢別男女人数

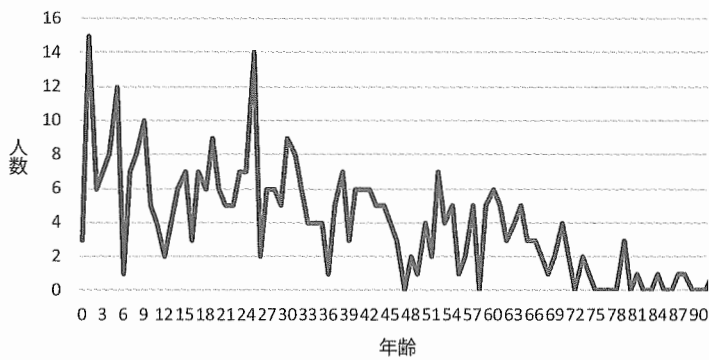


図2 年齢別人数

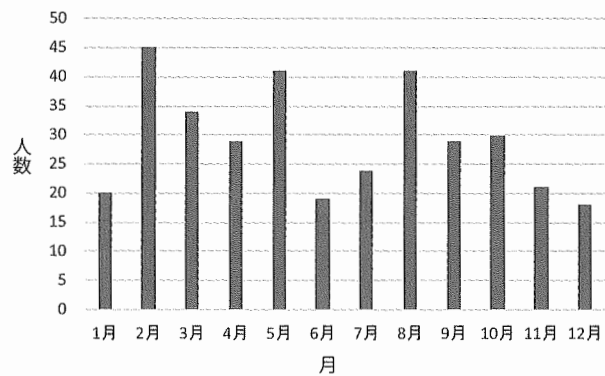


図3 誕生月別人数

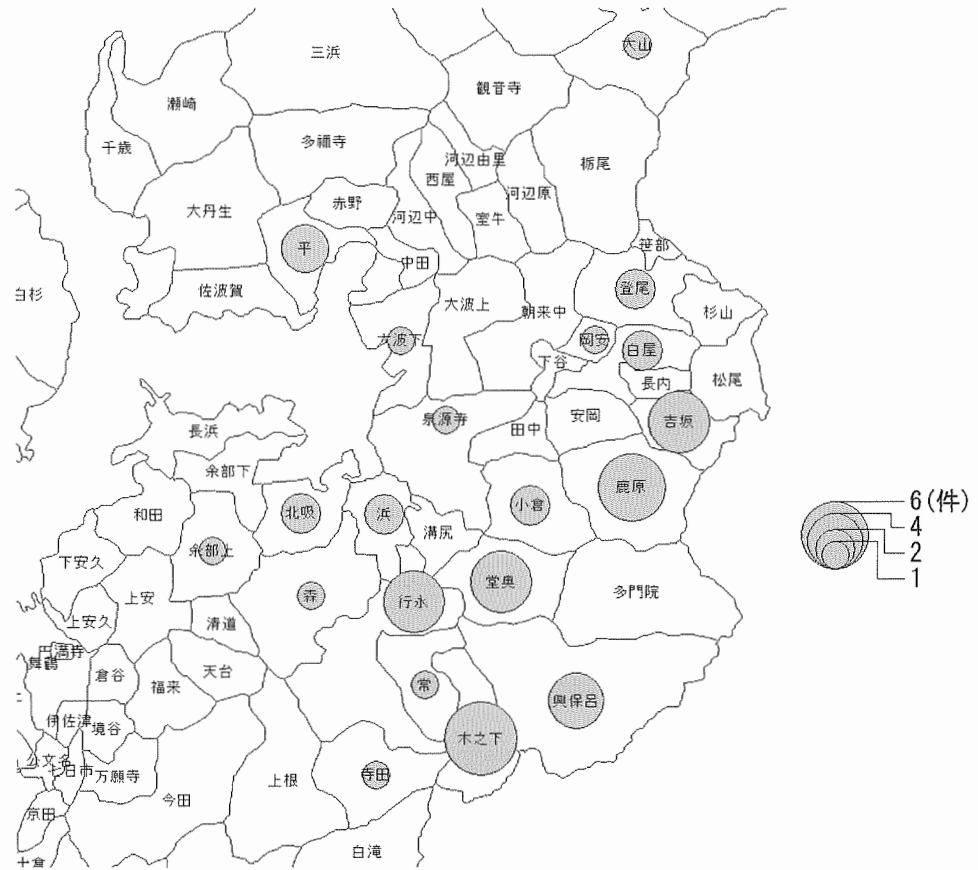


図4 多門院の縁組の地域別人数

表2 村別の加籍数

木之下	7	泉源寺	1
鹿原	6	大波下	1
堂奥	5	大山	1
行永	5	岡安	1
吉坂	5	城屋	1
興保呂	4	常	1
平	3	寺田	1
小倉	2	布敷	1
北吸	2	森	1
白屋	2	大飯郡上瀬	1
登尾	2	大飯郡山中	1
濱	2	大飯郡六路	3
余部上	1		

表3 村別の送籍数

鹿原	1
行永	2
西京今出川	1
原	1

## 表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 丹後風土記残欠倉部山 = 高梯郷の中心地  
(舞鶴市多門院字梯木林) 新谷一幸氏撮影
- 2 大宮売神社旧本殿の調査風景 近藤史昭氏撮影
- 3 稲の虫送り (舞鶴市多門院) 新谷一幸氏撮影
- 4 舞鶴湾口から青葉山など東地域の山 松岡秀雄氏撮影
- 5 京丹後市大宮売神社の境内 菱田哲郎氏撮影

## 京都府立大学文化遺産叢書 (2008 ~)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 2 近世伊予越智島地域における流動する人・物・情報  
—御用日記・諸願控の総合的研究—
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図—地域文化遺産の情報化—
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観—地域文化遺産の情報化—
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽地域の地域文化遺産—神社・街道の文化遺産と景観—
- 7 熊野の信仰と景観—宗教遺産学の試み—
- 8 石見銀山城の歴史と景観—世界遺産と地域遺産—
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 八幡・南山城地域の寺院資料と信仰—京都府歴史資料調査—
- 11 舞鶴の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 13 古代寺院の儀礼・経営に関する分野横断的研究



### 京都府立大学文化遺産叢書 第14集 舞鶴・京丹後地域の文化遺産

編集 東 昇・菱田 哲郎  
発行 京都府立大学文学部歴史学科  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5  
発行日 2018年3月30日  
印刷 サンケイデザイン株式会社  
〒603-8165 京都市北区紫野西御所田町 14 番地 2